

# 大阪城

2021  
10/28  
(木)  
14208  
号

全巻  
西成分  
2247  
6647-  
4947

大きな落葉が道に落ちていて、ふから紅葉が  
山を色とりどる季節の到来を感じます。  
着る物も寒さにむけたものと着るように  
日々、人向、卸していきます。

日本が好きで、このは、季節の移り変わりが  
はつきりしていて、秋・冬・春・夏、みんなとれどれ  
いんだ……というた、瀬島龍三さんのコメントを  
思い出す。元南軍の参謀で、晩年の講演会で  
は、たいしたことはしやらず、日本の四季とシベリアから  
帰ったすぐは、任吉の方の府邸に任命、左官屋の  
仕事をしていたという話がほとんどだったのと思ひ出す。  
今から思えば、瀬島さんは、左官屋の仕事を続け、  
労働運動などをやった。その人生の中で、日本軍国陸軍の  
反省と総括をすべきだったために……と思ふ。かんじ  
満州事変（1931年、昭和6年）の責任者、石原莞爾  
さんにも、晩年百姓をされていたが、交命な総括は出せて  
いない。育ってきた時代と生きてきた栄養食の枠を  
限界があったにせよ、残念なことである。

今、時代は、ニコニコしながら、敵基地攻撃戦をやるとか、軍事費をふやせとか、自分は死なないと思ってるやつ、命令する役だてと心ついてるやつが、イサマシイことというのが、立派とか、再度の敗北の道に介つたある。

